

◆講習会等

漁家経営講習会「自分で青色申告」

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

1. 目的

景気の低迷や漁業生産の減少により漁家経営はますます厳しい現状に陥っている。このようななか、これまでのようなどんぶり勘定での漁家経営では立ち行かなくなっている。このため、漁業者が経営者としての自覚を持ち、コスト削減を意識した漁業を考える必要がある。また、漁業者も自営業者であることから確定申告を行わなければならないが、ほとんどの方が白色申告を行っているのが現状である。よりメリットのある青色申告を行える漁業者を育成するため、那覇青色申告会の協力を得て経営講習会を開催することにした。

2. 方法

沖縄県内で青色申告を手助けするための団体である那覇青色申告会の協力を得て、沖縄本島北部地区(9月13日)と中南部地区(9月14日)において漁家経営講習会を開催することとした。また、パソコン持参者に対しては、青色申告会の配布しているブルーリターン A 体験版を使った操作方法の指導を実施した。



中南部地区講習会の様子

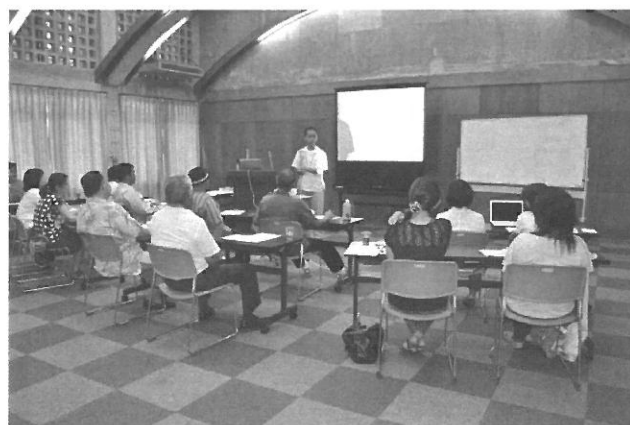
3. 結果

平成23年9月13日と14日の2日間に渡って、那覇青色申告会の山里哲事業課長を講師として漁家経営講習会「自分で青色申告」を開催した。13日は中南部地区を対象に沖縄市産業交流センターで開催し、漁業者や女性部等関係者14名が参加、14日は北部地区を対象に名護市中央公民館で開催し、関係者12名が参加した。

山里課長は、青色申告と白色申告とのちがいや特典について説明し、領収証の重要性と保管方法等について質疑応答方式で分かりやすい講義をされた。また、青色申告の会計ソフト「ブルーリターン A (体験版)」を体験し、自分で青色申告を行うことによって経営状況を把握し、どんぶり勘定から脱却できることを強調された。会場からは、実際に青色申告をするときの具体的な質問等があり、活発な意見交換がなされた。

4. 考察

今後も、定期的な講習会を開催して節税効果の高い青色申告を行う漁業者の育成を目指したい。



北部地区講習会の様子